

## R14b 渦状銀河の表面測光と力学モデル

赤坂達生、岡根行孝\*、横尾武夫(大阪教育大学、\*宇治市総合野外活動センター)

銀河の回転曲線は質量分布を求める上で基本的な観測データであるが、さらに輝度分布の情報を加えることによって、より詳しい構造を知ることができる。

近年、高分解能のCO観測により、銀河の中心部の正確な回転曲線が得られるようになった(Sofue, Y. 1997, PASJ 49, 17 他)。我々は、これらの内部の回転曲線が詳しく分かっている銀河について、改めて、CCDによる表面測光を行い、それらの光学的構造とともに、回転曲線のデータと合わせて、銀河の統一的な力学的構造を明らかにするプロジェクトを進めている。

現在、すでに観測と解析が行われた銀河は、NGC 2841、NGC 4258、NGC 4736、NGC 5033、NGC 5055、NGC 6941、である。

光学的観測は、大阪教育大学の51cm反射望遠鏡( $f = 600\text{ cm}$ )と冷却CCDカメラ(Astromed社)を用い、これらの銀河をV, R, Iの3バンドという、ほぼ一定の値を示している事は注目に値する。